

これからの時代の地域における大学の在り方について – 地域の中核となる大学であるために –

(令和3年12月15日 中央教育審議会大学分科会審議まとめ) (案)

はじめに

(現状)

地域社会の活力の低下・多極分散型の国家形成の必要性・18歳人口の減少・
地方部を中心に大学の定員未充足

(検討に当たっての認識)

- ・「**地域の中核となる大学**」の実現が、我が国社会全体の**変革の駆動力**となる。
- ・地域は様々な課題が生じる最前線。地方大学振興にも資する。
- ・「地域」の範囲は多様で、地域や大学の関係者での議論が求められる。

(大学と地域に関する概念整理)

本稿における「**地域における大学**」
＝「**地域に根差した**」「**地域に所在する**」という地域との機能的な関係性に着目

※「**地方**」は地理的な性質（主として「**東京圏**」以外）を表す場合に用いる。

1. 地域における大学の役割とこれまでの取組

(地域における大学の役割)

地域において大学にしか果たせない役割

- ①人材育成機関としての役割（必要不可欠な分野の従事者、地域産業のDXやグローバル化を推進する人材、地域社会を活性化させる人材）
- ②高度な研究能力を有する機関としての役割（産業界等との連携、地域の発展や課題解決に資する取組の実行）
- ③地域の文化・歴史を発展・継承する役割（地域の魅力の発信）
- ④知と人材のハブとしての役割（海外等の他地域との窓口）

2. 地域における大学を取り巻く状況と「地域の中核となる大学」の必要性

(大学にとっての地域の魅力)

学修のフィールド、様々な経験の場、イノベーション創出の契機となる地域課題の宝庫、DX・グローバル化の最前線

※地域における大学の振興を若者の流出抑止の手段としてのみ捉えるのではなく、国内外の人材の流動性を高め、日本の大学界や各地域が活性化していくという視点

(「地域の中核となる大学」とは)

産学官連携、人材が集まる「**魅力のある地域**」、地域の課題解決や地域経済の発展を支え地域に貢献する「**地域の中核となる大学**」を目指す取組が必要

※「**地域の中核となる大学**」の在り方は地域の関係者に活発に議論されるべき。地域社会における各大学の必要性が明確化が重要。

※必ずしもその地域に所在する大学にのみ求められるものではない。

①「**学修面からの課題**」 ②「**イノベーション創出上の課題**」 ③「**連携上の課題**」等が指摘

3. 地域ならではの人材育成の推進

<大学>

- ・卒業生に関する基礎データの収集・分析・共有
- ・実践的な長期インターンシップ
- ・地方公共団体や企業が実施する奨学金の返還支援の活用
- ・短期集中型のプログラム構築 等

<国>

- ・全国的な卒業後の学生の地域別・分野別就職状況等の基礎データの収集 等

<地方公共団体・産業界等>

- ・大学への講師派遣、寄附金・寄附講座の提供 等
- ※ 現在の延長線上で地域産業に役立つ人材だけでなく、地域の社会産業構造を変革し、DXやグローバル化へと導いていくような人材の育成も必要。

4. 地域ならではのイノベーションの創出

<大学>

- ・地方公共団体や産業界との窓口となる教職員・UR Aの配置推進
- ・大学院教育と学部教育の緊密・実質的な接続
- ・ジョブ型研究インターンシップの推進
- ・「**イノベーション・コモンズ**（共創拠点）」を形成する大学施設等の整備推進 等

<国>

- ・社会変革等につながる産学官連携による研究開発や社会実装を促進する拠点形成支援
- ・アントレプレナーシップ教育の充実、創業準備段階からのコンサルティング等の経営人材との連携

<地方公共団体・産業界等>

- ・高等教育担当部署の創設や大学連携担当職員の配置 等

5. 連携の推進

<大学>

- ・高等教育担当部署の創設や大学連携担当職員の配置
- ・高等学校など地域の初等中等教育機関等との連携等

<国>

- ・優れた取組事例についての周知広報

<地方公共団体・産業界等>

- ・コーディネーターの発掘・育成・活用
- ・高等教育担当部局の設置
- ・地方公共団体の総合計画等への大学を活用した地方創生に関する取組の位置づけ 等